

## 15. 医歯学総合研究科

(1) 医歯学総合研究科の教育目的と特徴	15-2
(2) 「教育の水準」の分析	15-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	15-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	15-13
【参考】データ分析集 指標一覧	15-15

## (1) 医歯学総合研究科の教育目的と特徴

1. 新潟大学は、自律と創生の理念のもと、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的としている。大学院においては、「時代の要求に即応することのできる、より進んだ学際的な教育と研究を行い、チャレンジ精神に満ちた高度の専門的職業人及び研究者を養成する」ことを第三期中期目標としている。これらを踏まえ、医歯学総合研究科は、「先端生命科学を担う研究者、疾病の診断・治療に役立つ探索型医療研究者及び高度医療・保健指導を担当できる専門職業人を養成すること」を教育目的としている。
2. 修士課程においては、医学以外の専門的背景を持つ入学者に対し、医療・保健に必要な基礎医学知識を持ち、最先端研究に裏打ちされた課題発見・課題解決能力に秀でた人材、さらにこれらの技能に基づいて最先端医学研究・教育分野に進学する人材を育成することを目的としている。博士課程においては、医学・歯学の学際的知識、研究技能と国際性を併せ持ち、先端的生命科学・医学の未来を発展・開拓できる研究・教育者、および最先端研究に裏打ちされた課題発見・課題解決力と創造性を持ち、先端医療を実施・開発するとともに教育的・指導的役割を果たせる医療人を養成することを目的としている。
3. 本研究科の特徴として、医学と歯学の統合による学際的教育、国際性、社会人と留学生の積極的な受け入れがある。人材養成目標達成のため、異分野の教員からなる主指導と副指導教員による多面的指導体制を導入している。修士課程には医科学専攻、博士課程には分子・細胞、臓器・個体、地域・国際に対応する分子細胞医学、生体機能調節医学、地域疾病制御医学と口腔生命科学の4専攻を設置している。さらに口腔生命福祉学専攻博士前期・後期課程を設置している。各専攻には、医歯学系の教員その他、医歯学総合病院、脳研究所、腎研究センター等の教員が協力教員として参加し、教育を行っている。
4. 地域・国際社会からの要請に応じて、留学生の受入を積極的に進め、これらの学生に対する教育体制を整備している。特に、ロシア、アジア地域の留学生を積極的に受け入れている。医学・歯学の発展・拡大・多様性に伴って、キャリアアップを目指す様々な職種からの入学希望者が増加している。大学院設置基準第14条に基づく昼夜開講制に加え、オンライン(e-learning)教育環境の整備、長期履修制度の導入により、柔軟な学修機会を提供している。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 3415-i1-1, 後掲別添資料 3415-i2-1）
- ※ 2019年度に全研究科において、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直し・策定を行った。

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 3415-i2-1）
- ※ 2019年5月1日時点では教育課程方針を策定していないが、2019年度に3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直し・策定を行った。

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 3415-i3-1～5）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 3415-i3-6）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 3415-i3-7～8, 前掲別添資料 3415-i3-2, 4）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 歯学系の各専攻では学生の科目選択の参考にするため全科目に分野水準コー

## 新潟大学医歯学総合研究科 教育活動の状況

ド（分野〔2桁〕＋水準〔2桁〕）を付し（前掲別添資料 3415-i3-5），また科目ごとにA科目（基本的内容）とB科目（展開的内容）に，さらに14条特例による学生の履修の一助として，各科目をⅠ（一般学生向け）とⅡ（社会人学生向け）に区別し，カリキュラムの体系化を行った。これらカリキュラムの体系化を専攻内に設置した高度口腔機能教育研究センターが一括管理することにより，学生に効率的かつ体系的な教育カリキュラムを提供することができ，入学定員の充足率の確保および高い標準修業年限での学位授与率につながっていると考えられる。

[3.1]

- 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」（2012～2016年度）及び文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン「東北次世代がんプロ養成プラン」（2017年度採択）へ参画し，博士課程に在籍する学生を履修対象とする大学院コースを開設し，ゲノム医療，AYA世代，希少がん，ライフステージに対応できるがん専門医療人の養成に取り組んでいる（資料1）。

[3.2]

資料1 がんプロ入学者数・修了者数

年度	2015	2016	2017	2018	2019
入学者数	2	4	1	0	2
修了者数	1	3	5	2	1

- 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「発災から復興まで支援する災害医療人材養成」（2014～2018年度）により，災害における医療の質の向上と組織間マネジメントに精通する高度災害医療人材の養成に取り組んでおり，2018年度3人，2019年度2人を修士課程に受け入れた。また，2018年度に文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」に採択され，災害時における急性期から慢性期，復興期までを視野に入れた医療チームによる医療支援活動など，災害医療全般に対するプロフェッショナルな人材の養成に取り組んでいる。[3.2]

- 口腔生命科学専攻では，超高齢社会への対応ならびにエビデンスに基づく臨床教育の展開のため，研究科の教育目標である学際性と境界型教育を行う基礎・臨床連続講義（専攻個別科目〔選択科目〕）を2016年度より開講していたが，学生および社会ニーズに応えるため，既存の顎口腔機能学に加え，2019年度より新たに「臨床疫学研究」（分野水準コード9015）を開講した。実験計画法に関して，入門科目である既設のベーシック実践統計学演習（分野水準コード9211）に加え，臨床疫学研究の開講により，学生に歯科における臨床疫学研究を推進するために根拠に基づく医療（EBM）とガイドラインの重要性を体系的に学ばせることができた。[3.2, 3.3]

- 口腔生命科学専攻では，大学院 GP の採択により開設されてきたコースワークの充実に取り組み，専攻共通科目（選択必修科目）であるコースワークの教育内

容を見直すとともに、基礎歯学コースワーク（分野水準コード 9013）10 科目（第 2 期中期目標期間より 1 科目増）、臨床歯学コースワーク（分野水準コード 9113）13 科目（第 2 期中期目標期間より 1 科目増）の計 23 科目（計 2 科目増）となった。なお、社会人向けにも同一の演習内容の科目を開講する昼夜開講科目である。コースワーク科目の充実により、高度な研究技法を身につけることができ、学位研究に円滑に移行できるようになった。[3.5]

- 2018 年に全学で定めた「新潟大学における「学位プログラム評価」の基本枠組み」に基づき（前掲別添資料 3415-i3-6）、2019 年度に各専攻において「大学院学位プログラム評価指針」の作成に着手し、2020 年度に教育戦略統括室による確認・修正等を経て完成した後、これに基づき、2020 年度以降、自己点検・評価を順次実施する予定である。「大学院学位プログラム評価指針」における評価項目の一つに、「カリキュラムの適切さ」があり、カリキュラムマップやカリキュラムツリーから、カリキュラムの編成が体系性を有しているか点検・評価することとしている。[3.0]

### <必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 3415-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 3415-i4-2～5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 3415-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料なし)

理由：本研究科において、2017 年度はインターンシップを実施していないため。

- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- e-learning システム (e-Lecture)（具体的には、授業を撮影した動画を医学科のホームページにアップロードし、視聴した学生は授業の内容についてのレポートを提出する。）により、授業を欠席した学生や、遠隔地にある連携大学院の学生が授業を聴講できる仕組みを構築しており、医学系博士課程では、2016 年度 4 人、2017 年度 4 人、2018 年度 8 人、2019 年度 20 人の学生が e-learning システムを利用した。[4.3]

## 新潟大学医歯学総合研究科 教育活動の状況

- 歯学系の各専攻では、入学式当日に、全新生を対象に履修ガイダンスを行っている。また入学後直ちに主指導教員1人、副指導教員2人を定め、複数指導体制で教育を行い、1年間の研究進捗状況を毎年度末に提出させ、研究指導状況を大学院学務委員会でチェックすることにより組織的に管理している。このことにより、口腔生命科学専攻の標準修業年限内での学位取得率はほぼ90%を、口腔生命福祉学専攻博士前期課程では100%を維持している。[4.4]
- 国際誌への論文発表および実験計画法の重要性の高まりから、口腔生命科学専攻では、専攻共通科目の必修科目として、2015年度は8コマであった実践統計学ベーシックコース（分野水準コード9211）を2020年度より15コマに拡大充実させた。また、半期開講であったアカデミックライティング&リーディング（外国人教師）を2016年度より通年開講（15コマ×2期）とし、これら2科目を1年生全員に受講させた。これら共通教育の実施により、学位研究に円滑に移行でき、英文での口頭発表数、英文による学位論文発表数が増加した。[4.5]
- 歯学系専攻では、学位論文の内容は論文提出前に学内学会（新潟歯学会）で発表し、専攻内教員と学外研究者とのディスカッションを義務化し（学位審査論文提出要件として規定）、その後、論文提出し、学位審査を行っている。その結果、質の高い学位論文が輩出されるようになり学会賞の受賞件数が、第2期中期目標期間中、年平均23.8件だったものが、第3期中期目標期間では29.7件と増加した。[4.5]
- 口腔生命科学専攻では、研究倫理教育として、実践統計学ベーシックコースでの講義に加え、2016年度より研究倫理に特化した「研究倫理法令・遺伝子組換え実験コースワークⅠ、Ⅱ（半期15コマ）」を選択必修科目として開講し、大学院課程早期から研究倫理に関する講義を提供している。さらに、各教育研究分野内での研究倫理教育のために、「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（日本学術振興会）ならびに同英文版「For the Sound Development of Science -The Attitude of a Conscientious Scientist-」を配布し、研究倫理教育の充実を図っている。なお、歯学系専攻の主指導教員（教授）は全員、APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）による研究倫理教育を受け、学生指導にあたっている。[4.5]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3415-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3415-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3415-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3415-i5-4）

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 他教室の学生の研究状況を知ることで主体的学習を促し、教員にとっては学生の研究進行状況把握と教員相互の評価や意見交換をする観点から、学生の研究発表会として中間発表会「みかんの会」を開催している（別添資料 3415-i5-5、資料2）。[5.1]

## 資料2 みかんの会参加状況

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
演題数	28	20	20	26
出席者数	80	70	82	98

- 医学系大学院生における医学の研究，医学教育の充実及び研究の進展に資することを目的とした「協和会医学研究助成金」を毎年十数人の博士・修士学生に助成している。助成件数は原則12件（博士課程第2年次学生及び第3年次学生に各4件，修士課程第2年次学生に4件），金額は博士課程各学年に40万円，30万円，20万円，10万円，修士課程では20万円を1件，10万円を3件としている。受賞者は，研究に必要な物品の購入や学会へ参加する際の旅費等に助成金を使用している。[5.1]
- 歯学系専攻において，学生支援に係る相談体制は学務係が窓口となり，大学院学務委員会が対応している。また留学生の履修相談，生活支援には第3期中期目標期間中に専攻内に新たに設置した歯学教育開発室に配置している特任講師1人が窓口となって対応しており，大学院委員会と国際交流委員会が連携して留学生支援にあたっている。[5.0]

## &lt;必須記載項目6 成績評価&gt;

## 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3415-i6-1～4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3415-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3415-i6-6～8）

※ 成績評価基準，学生からの成績評価に関する申立ての手続きについて，2019年度に明文化し，2020年度の学生便覧・シラバス等にて学生へ周知している（前掲別添資料 3415-i6-1～4，6～8）。

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 臨床歯学を専攻する学生に，各学年および終了時での臨床技能の到達目標を明示したパンフレット「臨床系歯学を専攻する学生のために」を作成，配布している。これにより，学生は進路選択，入学後の学修過程および学修の状況を把握で

## 新潟大学医歯学総合研究科 教育活動の状況

き、学修目標を設定することが可能となった。またこの臨床技能の評価版パンフレット「臨床系歯学を専攻する学生のために（評価方法編）」も作成し、臨床技能の評価に活用している。これらのパンフレットは入学前の学生募集にも活用され、研修医登院式でも全研修医に配布し、博士課程の学生募集に活用し、口腔生命科学専攻入学者の高い充足率確保に役立っている。[6.1]

### <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定  
(別添資料 3415-i7-1, 前掲別添資料 3415-i3-7)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料  
(別添資料 3415-i7-2, 前掲別添資料 3415-i3-7)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準  
(別添資料 3415-i7-3～5, 前掲別添資料 3415-i3-4, 7, 3415-i7-1)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 (別添資料 3415-i7-6, 前掲別添資料 3415-i3-7, 3415-i7-1)
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料  
(別添資料 3415-i7-7～9, 前掲別添資料 3415-i3-7, 3415-i7-5)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学系専攻では、学位論文の審査は公開審査としており、2018年度に、審査のより高い透明性の確保や審査内容を充実させることを目的として、審査委員（主査1人、副査2人）に指導教員を含めないとすることや、発表時間を1.5倍にするなど学位論文審査の方法に関し改訂を行った（別添資料 3415-i7-10）。[7.2]
- 歯学系専攻では、学内学会での予備審査を経て提出された学位論文の審査は主査1人、副査2人、計3人で行っているが、その選考にあたってはあらかじめ大学院学務委員会で提出論文の内容を精査し、学位審査委員候補者リストを作成した後、歯学系研究科教授会議で審議し、学位審査委員を選出している。このことにより、より職種にかかわらず専門的な人材を学位審査に登用することができ、准教授の学位申請への積極的登用や通常2人である副査の増員が図られるようになった。論文の審査にあたっては審査資料に加え、歯学部ホームページ上に当該申請論文を掲載した上で（学内限定・期間限定公開）、専攻内で作成した「学位論文審査基準」を元に研究科教授会議で投票の上、可否を決定している。[7.2]



## <必須記載項目 8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料  
(別添資料 3415-i8-1, 前掲別添資料 3415-i2-1)
- ※ 2019 年度に全研究科において, 3 ポリシー (ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, アドミッション・ポリシー) の見直し・策定を行った。
- ・ 入学定員充足率 (別添資料 3415-i8-2)
- ・ 指標番号 1 ~ 3、6 ~ 7 (データ分析集)

### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 2013 年に文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「日露感染症研究を基軸とした国際医療人材育成プログラム」に採択され, 2016 年度に 1 人, 2017 年度に 2 人, 2018 年度に 2 人を受け入れた。また, 2018 年度に文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「日本・ASEAN 連携による「こころの発達医学」指導者養成プログラム」が採択され, 2019 年に 3 人を受け入れた。さらには 2019 年度国費外国人留学生 [日本留学海外拠点連携推進事業枠] にて 1 人のロシア人学生を受け入れた。また, これらのプログラム運営や派遣・受入学生のサポートを担当する部署として, G-MedEx 統括センターを創設した。[8.1]
- 医科学専攻 (修士課程) では, 医学研究や医療の分野に興味のある方に向けて大学院学生募集説明会を五十嵐会場, 旭町会場 (2 回), 東京会場 (1 回) で実施している。また, 医学科 TOP ページに大学院入学説明会の情報を掲載し広報の充実につとめている。2019 年度は学生募集説明会を 5 回実施し, 参加者数は 40 人であった。その結果, 2020 年度入学者は前年度に比べると 1 人の増となった。[8.1]
- 歯学系では, 入学生の確保のため, 学士課程に「歯学研究入門」を新たに開講し, 学部段階からリサーチマインドの醸成に努めている。また大学院生が学内学会である新潟歯学会で発表した演題の中から, 新潟歯学会賞, 優秀賞を選考し, 表彰式を学部学生の前で行い, 大学院進学への動機づけを行っている。また学内誌である歯学部ニュース (毎年 2 号発行) 内に「大学院に行こう」と題する大学院修了生によるエッセイ記事を毎号掲載し, 大学院学生の確保に努めている。これらの結果, 口腔生命科学専攻の充足率は常に 100% を維持している。[8.1]

## <選択記載項目 A 教育の国際性>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 3415-iA-1)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文部科学省大学世界展開力強化事業「日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築」（2014～2018年度採択）により、学生交流プログラムを通じ、日露の架け橋として両国の医療を発展させ、世界の医学の進歩に資するグローバル医療人の養成に取り組んでおり、①レギュラーPhDプログラムについては、2016年度は派遣2人・受入4人、2017年度は派遣3人・受入6人、2018年度は派遣4人・受入7人、②ダブルディグリープログラム学生については、2016年度受入3人、2018年度受入1人となっている。なお、本事業は、文部科学省の中間評価でA評価、事業終了時の事後評価においてS評価を得た（別添資料3415-iA-2）。[A.1]
- 2018年度に文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「日本・ASEAN連携による「こころの発達医学」指導者養成プログラム」が採択され、2019年に3人を受け入れた。[A.1]
- 学生に早い時期から外科技術習得の機会を与え、優秀な外科医を育成することを目的に「ロシア学生外科オリンピック」が毎年開催されている。ハバロフスクの極東医科大学で開催される極東予選会に、2016年度2人、2017年度2人の大学院生を派遣した。[A.1]
- 医学系では、2016～2019年で部局間交流協定の新規締結を7校の大学・研究所と行った。うちカザン医科大学とモスクワ国立大学は、上記世界展開力強化事業の一環として、新規締結以降15人の派遣・受入れを行い、他の新規締結も含めると、派遣2人、受入20人である。[A.1]
- 2018年度に、特にイスラム系留学生の使用目的で共同研究棟1階に祈りの部屋 prayer room を設置した。[A.1]
- 歯学系では、毎年、海外の交流協定締結校と共催でASEANで国際シンポジウム（タイ、インドネシア隔年開催、台湾毎年開催）を開催し、その際、ASEAN歯学部長会議を開催し、留学生の増加を目指している。その結果、留学生在籍者数も2016年度9人（うち私費3人）から2019年度16人（うち私費9人）と増加した。また、これらシンポジウムへの派遣日本人大学院学生は2016年度10人、2017年度15人、2018年度24人、2019年度13人の計62人であり、この値は口腔生命科学専攻の総収容定員の約5割である。また「超高齢社会における歯科医療リーダー養成プログラム」が2019年度文部科学省事業「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択された。2019年には大韓民国延世大学大学院歯学研究科とダブルディグリープログラム開設の協定を行い、2020年度からプログラムが開始される予定となっている。なお、タイ・チェンマイ大学歯学部ともダブルディグリープログラム開設に向けた手続きが行われている。[A.1]

## &lt;選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動&gt;

## 【基本的な記載事項】

(特になし)

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 東京都医学総合研究所及び放射線総合研究所と教育研究協力の協定を結び、2008年4月から連携大学院として相互の教育研究活動の充実、研究交流の促進を図っている。これらの研究所に所属しながら修士・博士課程の大学院生として在籍するケースが多数あり、学生が修了する際の論文審査には、研究所の教員を審査委員として招聘している（資料3）。[B.1]

資料3 連携大学院の在籍・修了状況

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
在籍者数	6	6	9	15
修了者数	2	1	2	0

## &lt;選択記載項目C 教育の質の保証・向上&gt;

## 【基本的な記載事項】

(特になし)

## 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学系教員のFDを目的として「全教員懇談会」を毎月行っている（別添資料3415-iC-1）。医学系の教育・研究に関する幅広いテーマに関して最新の情報を共有することで、教員の質と教育・研究へのモチベーション向上に寄与する取り組みである。特に定期的に行う科研費対策と国際交流事業のテーマは、科研費採択向上およびロシアとの国際交流事業である文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の最高評価達成に欠かすことのできないものであり、大学院教育研究に貢献した。FDの中で特に国際交流のテーマ（第63回、第78回）は、外国人大学院生の数と質の向上に貢献し、世界展開力強化事業成功の原動力となった。[C.1]
- 本学の教育の質保証を目的に、学位プログラムの「人材育成目標の適切さ」「カリキュラムの適切さ」「学修成果の評価と達成状況」「学位プログラムの継続的な改善状況」を基準として点検すべき事項を定め、資料・情報を収集して現状を把握するとともに、課題を検討して必要があればその改善策を立てて取り組む「大学院学位プログラム評価」を、全学的に実施することとなった。2019年度に全学で定めた「学位プログラム評価指針」の基本的枠組みに従い（前掲別添資料3415-i3-6）、各専攻において「大学院学位プログラム評価指針」の作成に着手するとともに、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直し・策定を行った（前掲別添資料3415-i2-1）。

## 新潟大学医歯学総合研究科 教育活動の状況

「大学院学位プログラム評価指針」については、2020年度に教育戦略統括室による確認・修正等を経て完成した後、これに基づき、2020年度以降、自己点検・評価を順次実施する予定である。[C.2]

### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3415-iD-1～3）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「東北次世代がんプロ養成プラン」（2017年度～）では、地域の中核的病院の遺伝性腫瘍診療に携わる医師・看護師等のメディカルスタッフを対象としたインテンシブコース（臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー養成コース、がんゲノム医療人育成コース、集学的がん治療に対応する口腔支持療法研修コース）を設置している（前掲別添資料 3415-iD-1, 資料4）。「発災から復興まで支援する災害医療人材養成プログラム」（2012～2016年度）及び「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」（2017年度～）では、災害医療に携わる医療職及び行政職を対象とした履修証明プログラムを設置している（前掲別添資料 3415-iD-2～3, 資料4）。e-learning による講義を行うなど、学生が時間・場所を選ぶことなく学ぶことができる環境を整えている。[D.1]

#### 資料4がんプロ（インテンシブコース）と災害医療（履修証明プログラム）の実績

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
がんプロ	受入	1	0	19	24	23
	修了	1	0	19	24	23
災害医療	受入	12	23	20	17	22
	修了	0	0	0	0	28

- 歯学系専攻では、社会人特別選抜入試の実施や社会人対象の講義の開設（同一科目を開講時間を変えて2回開講）等、社会のニーズを踏まえた教育体制を整備している。その結果、社会人特別選抜で入学する学生は第3期中期目標期間中（2016年度から2020年度4月入学生まで）37人となった。また長期履修制度を導入し、現在、歯学系専攻で6人の学生が同制度を活用している。[D.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3415-ii1-1～4）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（前掲別添資料 3415-ii1-1～4）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 口腔生命科学専攻の標準修業年限修了率は、第2期中期目標期間開始時には79.0%（第1期中期目標期間最終年度71%）であったが、徐々に上昇し、第2期中期目標期間中の平均は88.5%であった。第3期中期目標期間より開始したよりきめ細かな学生支援、履修指導により、第3期中期目標期間中の年平均標準修業年限修了率は90.0%に上昇した。また口腔生命福祉学専攻博士前期課程でも、第2期中期目標期間と同様、高い標準修業年限修了率を示し、2016年度（80%）を除き、100%となっている。[1.1]
- 歯学系では、複数指導体制の確立、毎年度の組織的な成績・研究進捗状況管理、海外発表支援等の包括的な取組により、学生の研究活動へのモチベーションの高揚、さらには教員の課程制大学院の在り方への理解が深まり、大学院生の学会賞受賞件数が大幅に増加した。具体的には、第2期中期目標期間中の国内および国際学会での学会賞受賞件数は合わせて50件（年平均8.3件）であったが、2020年3月31日までの受賞件数は50件（年平均12.5件）であり、年平均で50%増である。[1.2]
- 口腔生命科学専攻の大学院生の学位論文発表先は、第2期中期目標期間中、impact factor（IF値）3以上のものは散見するだけであったが、英語および統計学等の共通科目の開講、多様な知識・技術習得を目指したコースワークの科目充実等により、第3期中期目標期間中ではIF値4.0以上のジャーナル（Sci. Rep., J. Clin. Periodontol. 等）やIF値3.0以上のジャーナル（Oncol. Rep., J. Appl. Physiol., Gerontol., Cell. Immunol., Vaccine, Int. End. J. 等）での発表があり、また学位論文の約半数がIF値2.0以上の国際英文誌に発表されるようになった。[1.2]
- 2018年には、生体機能調節医学専攻に所属する学生の研究業績が高インパクトファクターの国際専門誌に掲載され、糖尿病学において国内最高の学会である日本糖尿病学会年次学術集会で口演発表を行うとともに、同分野の世界最高峰の学会である米国糖尿病学会、欧州糖尿病学会においても採択され発表した。また、同業績が認められ、2018年度長寿科学関連国際学会派遣事業に採択された。[1.2]

**<必須記載項目2 就職、進学>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 指標番号 21～24 (データ分析集)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

(特になし)

**<選択記載項目A 卒業(修了)時の学生からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 3415-iiA-1)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 医科学専攻の2018年度修了予定者を対象としたアンケートでは、教室での研究指導は満足できるものだったかの問いに8割近くの修了生が満足と回答しており、論文のまとめ指導についての問いに85%以上が満足との回答があったことも含めて、修士論文の指導については概ね満足している内容であった。また、e-lectureの受講時期、レポート提出方法などは、現行のままでよいという意見が多数であった(前掲別添資料 3415-iiA-1)。[A.1]

**<選択記載項目B 卒業(修了)生からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業(修了)後、一定年限を経過した卒業(修了)生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料(別添資料 3415-iiB-1)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 2017年度に実施した、医科学専攻修了者(2004～2013年度入学)のアンケート調査結果では、教室での研究指導は満足できるものだったかの問いに対し、8割近くの修了生が満足と回答している(前掲別添資料 3415-iiB-1)。[B.1]

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。